

5月3日頃からの高温に対する農作物技術対策

令和7(2025)年5月1日

河内農業振興事務所

気象庁(4/24発表)の「高温に関する早期天候情報(関東甲信地方)」によると、4月30日頃から暖かい空気に覆われやすいため気温が高く、5月3日頃からはかなり高くなると予想されています。高温に注意し農作物や家畜の適切な管理に努めましょう。

熱中症対策

(1) 暑さに慣れていないこの時期は、熱中症リスクが高い。安全な農作業のために、熱中症の危険性を認識し、未然防止等その対処法について理解しておく。

- 高温時の作業は出来るだけ避ける
- 単独作業は避け、複数人で作業する
- やむを得ず単独作業になる場合は、仲間や家族に行き先、戻り時間を伝える。また、携帯電話を持っておく
- 20分おきに休憩し、こまめに水分・塩分を補給する
- ネッククーラー、ファン付き作業着、冷却ベスト等の熱中症対策グッズを活用する

(2) 熱中症には特徴的な症状がなく、暑熱環境での体調不良は全て熱中症の可能性がある。体調不良の症状があれば、ただちに作業を中断し、応急処置をとること。

【応急処置】

- 涼しい環境へ避難する
- 衣服を緩めて風通りを良くし、安静にする
- 氷等で首の付け根、脇の下、そけい部等、太い血管の走っている場所を冷やす。扇ぐ等で身体を冷やす
- 水分・塩分を補給する

(3) 応急処置を行っても症状が改善しない場合は、迷わずに医療機関で診察を受ける。

I 作物

1 水 稲

- (1) 苗の徒長、病害の発生が懸念されるため、育苗ハウスの側窓を開放するなど換気を徹底する。
- (2) 播種後出芽期に苗床の温度が高くなると、発芽障害が発生するので、遮光シートを使用する等、高温対策を実施する。
- (3) 除草剤によっては、高温時に散布すると薬害が生じるものがあるため、使用の際には製品ラベルに記載されている効果・薬害等の注意を確認し十分注意して使用する。

II 野菜

1 全 般

- (1) 施設栽培（雨よけ栽培を含む）は、高温による新葉の先枯れや果実の日焼け等の発生が懸念されるため、できるだけ換気を行うとともに、遮光資材を展張するなどして施設内の温度を下げる。
- (2) 極度に乾燥しないように天候を見ながらかん水する。
- (3) 育苗ほでは、乾燥しないようにこまめなかん水に努める。
- (4) 収穫した野菜は、できるだけ涼しい所に置き、鮮度を保つ。また、予冷庫があれば予冷庫に入れる。

2 いちご

- (1) 収穫は、果実温度の上昇を最小限にするため、早朝に行う。
- (2) 収穫が間に合わない場合は、塗布剤等により遮光する。
- (3) 親株育苗ほでは、乾燥しないように天候を見ながらかん水する。
- (4) 高設育苗等では、培地内が高温になり根が傷みやすくなるので、寒冷紗等を展張し培地内の温度を下げる。また、給液量が不足しないよう注意する。

Ⅲ 果 樹

1 全 般

- (1) ハウス栽培は、高温による葉焼け、果実の日焼け等の発生が懸念されるため、ハウス内が高温にならないよう換気をこまめに行うとともに、適宜かん水を行う。
- (2) 定植1～2年の苗木は、根域が浅く乾燥による影響が出やすいので、こまめにかん水を行う。

Ⅳ 花 き

1 りんどう

- (1) ハウス栽培は、高温による茎の徒長を防ぐため、換気に努めるとともに、乾燥しないように天候を見ながらかん水する。
- (2) 新植ほ場は、乾燥しないように天候をみながらかん水する。

V 畜 産

1 畜舎

- (1) 壁面や窓を開放し風通しをよくする。風の流れを妨げる障害物は移動する。
- (2) 扇風機は、外気を取入れ、風が一方向に流れるように設置する。また、家畜の体感温度を下げるため、家畜の体に直接風が当たるように配置する。
- (3) ファンにクモの巣やホコリが付着すると送風効率が下がるので清掃する。
- (4) 細霧装置を利用する際は、送風と組み合わせるとより効果的である。ただし、長時間の噴霧は牛舎を湿らし湿度を上昇させるため、間欠的な噴霧をする。

2 飼料給与・飼養管理対策

- (1) 家畜の行動をよく観察し、異常家畜の早期発見・早期治療に努める。
- (2) 密飼いを避け、体感温度と家畜のストレスを低減する。
- (3) 乳牛、繁殖牛等は、可能な場合は夜間放牧する。
- (4) 畜舎環境を良好に保ち、アンモニアやハエの発生を防ぐ。
- (5) 温湿度計（T H I メータ）を設置し、家畜の暑熱ストレスを把握する。
- (6) 新鮮な冷水が十分に飲めるよう水槽やウォーターカップを清潔に保つ。
- (7) 良質で消化性の良い飼料、細断した粗飼料を給与し、ルーメン発酵による体温上昇を抑える。また、不足するビタミンやミネラルを補給する。
- (8) 泌乳牛に重曹等の緩衝材を給与し、ルーメン内の pH 低下を抑える。
- (9) 飼料は涼しい時間帯に給与し、飼槽の清掃、エサ寄せをこまめに行う。また、1日分の飼料を小分けにし多回給与することで採食量の低下を抑える。

3 飼料作物

- (1) 高温により牧草の生育が早まる可能性があるので、生育状況をよく観察し、刈り遅れないよう収穫の準備を早めに進める。



農作物には登録農薬を使用し、使用基準を遵守しましょう！

身支度も
万全にし
てまる！

- ① 農薬容器のラベルをよく読み正しく使う（※）
- ② 農薬の飛散防止を徹底する
- ③ 農薬の使用状況を正確に記帳する

※既に購入されている農薬について、ラベルどおり使用できない場合もありますので、メーカーのチラシや県のホームページ等、最新の情報をご確認ください。

栃木県農業総合研究センター

検索

CLICK!

4月～6月は「春の農作業安全確認運動」の実施期間です。

乗用型トラクターの事故が最も多く発生しています！以下のことを心がけましょう。



- ・安全キャブ・フレームのある機種を使用する
- ・シートベルトとヘルメットを着用する
- ・ほ場を出る際は、ブレーキの連結ロックを確認する
- ・日没前の作業終了と、一般道走行に備え反射材を装着、点検する